

観光地におけるP&BRシステムへの誘導策に関する研究

金沢大学工学部 正会員 高山純一
金沢大学大学院 学生会員 ○横山 寛
金沢大学工学部 正会員 川上光彦
(株)長大 正会員 永田恭裕

1. はじめに

近年、観光地における情報提供により観光客の迷走を防ぎ、所要時間の短縮、旅行時の快適さの向上を目的とした試行実験や研究がなされている。^{1) 2) 3)}

金沢市は有数の観光都市であるが、古くからの街路網が現在も残っていること、また観光地周辺の駐車場不足などから、観光シーズン、特に春のGWの交通渋滞は大きな問題となっている。そこで、昭和63年からGWにP&BRシステムを導入し、交通渋滞を緩和しようという試みがなされている。

本研究は観光客を対象としたアンケート調査により、あらかじめ情報を持っていない旅行者に対して、いかに情報を提供し、P&BRシステムへの誘導を促進させるかについて明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

P&BRシステム専用駐車場としては北陸自動車道の金沢西インター(西IC)、金沢東インター(東IC)付近にそれぞれ650台収容可能な駐車場(公共施設)を借り上げて実施されている。

P&BRシステムの循環バスは、兼六園を中心とした主要観光地を結ぶように選定され、西ICルート、東ICルートとも5分間隔で運行されている。

調査はP&BRシステムが実施された平成8年5月4日、5日に次の2通りのアンケート調査を行った。P&BRシステム利用者に対する調査は、都心部からP&BRシステム専用駐車場への帰りのバスに乗るときにアンケート用紙を配布し、降車時に回収する方法を用いた。また、P&BRシステムを利用しなかった人を対象にした調査では、兼六園隣の県営兼六駐車場を利用した人に駐車場入口にてアンケート用紙を配布し、後日郵送にて回収する方法をとった。P&BRシステムを利用した人の調査では、回収381票(P&BRシステム利用台数に対し49.9%)、兼六駐車場利用者を対象にした調査では、配布2870票、回収288票(回収率10.0%)であった。

3. P&BRシステムについての情報提供手段

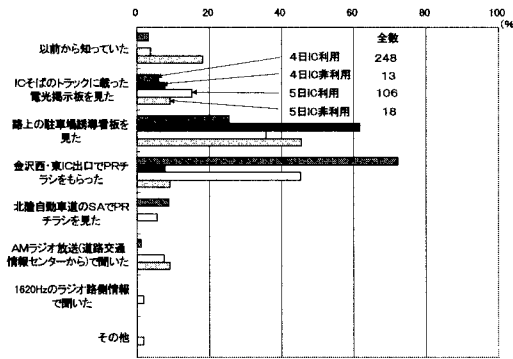


図-1 どのようにしてP&BRシステムを知ったか

P&BRシステムについての情報は、図-1に示すように複数の方法で提供されていたが、システム利用者(P&BRシステム利用者)が実際にどのようにしてシステムを知ったのかを日別、金沢西・東ICの利用・非利用別に集計した結果、次のような特徴が得られた。

IC利用者は主にIC出口で配布したPRチラシによって、IC非利用者は主に路上のシステム駐車場誘導看板を見てシステムのことを知ったようである。システム利用者は約93%がICを利用しているが、それに比べシステム非利用者のIC利用率は約65%と低くなっている。PRチラシ配布の効果が表れている一方、一般道利用者にP&BRシステムをより利用してもらうには、路上の看板による誘導を強化することが必要であると考えられる。

4. 情報提供のターゲット

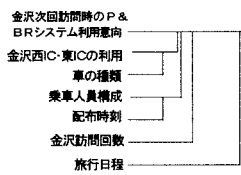


図-2 属性分析 (「P&BRシステム利用意向」からの距離)

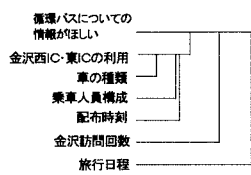
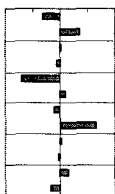


図-3 属性分析 (「循環バスについての情報がほしい」からの距離)

図-2, 図-3は、観光客の属性を変数として数量化Ⅱ類による分析を行い、その結果を重み付けし、クラスター分析をした結果のデンドログラムである。これらを比較すると、その形がよく似ていることがわかる。また、これと同じ変数を説明変数としてとり、数量化Ⅱ類を用いて分析したものが図-4である。

属性変数	変数	度数	ウェイト	レンジ
金沢訪問回数	はじめて	115	-0.63238	1.34539
	2回目以上	102	0.71299	
金沢西・東ICの利用	金沢西・東IC利用	155	0.05580	0.19566
	非利用	62	-0.13976	
旅行日程	日帰り	28	-1.39932	1.60663
	1泊2日以上	189	0.20730	
車の種類	乗用車	189	-0.19277	1.49397
	ワンボックス	29	1.30120	
乗車人員構成	2人	124	0.04259	0.09939
	3人以上	93	-0.05580	
配布時刻	午前	113	0.36351	0.64338
	午後	104	-0.33503	



外的基準：次回のP&Bシステム利用意向

図-4 利用意向一観光客属性(兼六駐車場利用者)

これらの分析結果から判断すると、特に次のような観光客に情報提供を行うことが効果的と考えられる。

- ・金沢西ICまたは東ICを利用しなかった人
- ・マイカーの乗車人員数の多い人
- ・午後に金沢市に到着した人

すなわち、現在行っている情報提供に加え、上記の観光客をターゲットとした情報提供をすることが有効であろう。

5. 情報提供の内容からの誘導

観光客が求める交通情報は、その人の属性により異なると考えられる。図-5, 図-6は日別、IC利用・非利用別に、「提供してほしい情報」について集計したものである。

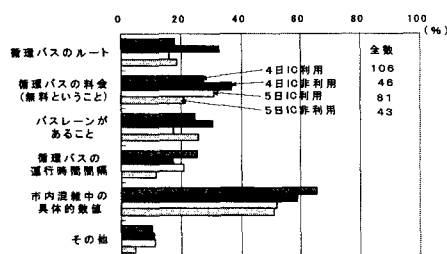


図-5 提供してほしい情報(兼六駐車場利用者)

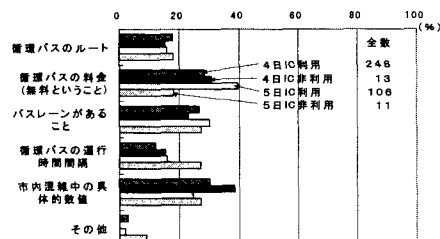


図-6 提供してほしい情報(P&Bシステム利用者)

兼六駐車場利用者は「市内混雑の具体的な数値」を知りたいという人が特に多かったのに対し、P&B利用者は「市内混雑の具体的な数値」と同じくらい「循環バス運賃が無料であること」や「バスレーンがあること」を知りたいという人が多いことがわかった。

情報の内容からのP&Bシステムへの誘導策についてまとめると、(1)兼六駐車場利用者(P&B非利用者)は、交通混雑の具体的な数値を知りたいという人が多いことから、交通混雑の情報とP&Bシステムの情報を同時に提供することにより、P&Bへの誘導が促進されるのではないかと考えられる。(2)兼六駐車場利用者で、P&Bシステムの循環バスについての各情報を知りたいという人が20~30%存在することから、循環バスについてのそれぞれの情報と共にP&Bシステムを利用することによって利用者が享受できる効用についてもPRすることが有効であると考えられる。

6. まとめ

本研究より、観光客の属性などにより提供してほしい情報の内容、P&Bシステムの利用意向に違いがあることがわかった。この特徴を有効に利用した情報提供がP&Bシステムへの誘導促進につながると考えられる。

今後の課題としては、情報を提供する位置、手段、情報の内容と質(信頼性)の違いによる情報提供効果の大きさ、さらには動的交通情報の提供効果などについて分析する必要があると考えている。

謝辞

本研究を行うにあたり、アンケート調査実施の協力ならびにP&Bシステムや駐車場に関する資料の提供をいただいたP&Bシステム実行委員会の方々に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 西岡誠治, 森地茂, 広島康祐; 観光地におけるP&Bシステムに関する研究, 交通工学, Vol. 30, No. 4, pp. 27-39, 1995
- 2) 古屋秀樹, 西井和夫, 花岡利幸; 観光地における交通需要管理の基本的課題: 富士スバルラインP&Bの事例を踏まえて, 土木計画学研究講演集, No. 18(2), pp. 589-592, 1995
- 3) 高山純一, 横山寛, 永田恭裕, 川上光彦; 観光地におけるP&B実施時の情報提供に関する研究, 土木計画学研究講演集, No. 19(2), pp. 775-778, 1996